



知床の自然と漁業活動を守り続けていくために

平成23年7月23日、斜里町において本年度第1回海域ワーキンググループ会合が開催され「知床世界自然遺産地域多利用型統合的**海域管理計画**」（通称：**海域管理計画**）の見直しについて、関係者の間で話し合われました。

Q. 「**海域管理計画**」て何？

知床は、季節的に流氷が訪れる北半球の海域の中で最も南にあることから生み出される豊かな海洋の自然と、それに結びついて陸上の自然が活気づく顕著な地域ということで世界自然遺産になりました。

こうした自然の保全と古くから行われている自然を守り育てた漁業の両立を掲げたものが「**海域管理計画**」です。

Q. どうして見直すの？

自然環境の保護に関わるものばかりでなく、これまで行政が策定してきた「**計画**」は、一度動き出すとなかなか止まらない、変えられない、という批判が常にありました。

自然環境とそれに関わる人間活動は刻々と変わります。このことから、「今」がどうなっているのか、何が欠けているのか、ということ踏まえて見直すことが必要とされているからです。

Q. なにか変わりそうなの？

「**海域管理計画**」では、知床の海の自然を代表するサケマスやスケトウダラ、トドや海鳥の生息・生育状況、および流氷や水温、プランクトンの季節変化などをモニターすることによって、知床の自然の状態を把握することに努めています。

見直しは始まったばかりですが、こうしたモニターから得られた色々な情報をもとに、専門の方々から意見を聞きながら、モニタリング項目を加えたり、改良したりしていこうとしています。

今回の議論の中では、「地球温暖化」の海洋における兆しと思われる事も新たに捉えていこう、ということが話題となりました。



○ 海域ワーキンググループメンバー

知床の自然保護について助言する「知床世界自然遺産科学委員会」のもと遺産地域の海の保全と持続可能な利用のあり方について話し合う作業部会を構成する方々です。

私が座長です



嶋山雅秀

北海道大学大学院
水産科学研究院教授
サケの生態学のこ
となら任せてね!



鳥澤 雅

(地独)道総研水産研究本部
本部長
北海道周辺の海の
魚のことは私に聞
いてください。



桜井泰憲

北海道大学大学院
水産科学研究院教授
海域管理計画策定
の時は御世話にな
りました。



大島慶一郎

北海道大学
低温研教授
海と流氷の研究を
続けて、はや20年。



松田裕之

横浜国立大学
環境情報研究院教授
専門は リスク管理、ク
マから海まで色々
とやっています。



永田光博

(地独)道総研
さげます・内水面水産試験場
場長
水産振興とサケマス
について色々研究
しています。

Q. 新しい計画はいつできるの?

来年中頃ぐらいまでに原案を策定する予定です。
まだまだ、話し合わなくてはならない内容が山積みされ
ていますが、その都度、策定経過を公表するとともに、原
案策定にあたっては皆様の御意見も広く公募する予定で
すので、御注目ください。



服部 寛

東海大学
生物理工学部教授
プランクトンの研
究から海洋分析を
行っています。



三宅博哉

(地独)道総研
釧路水産試験場
調査研究部長
スケトウダラの調
査研究に特に力を
入れています。

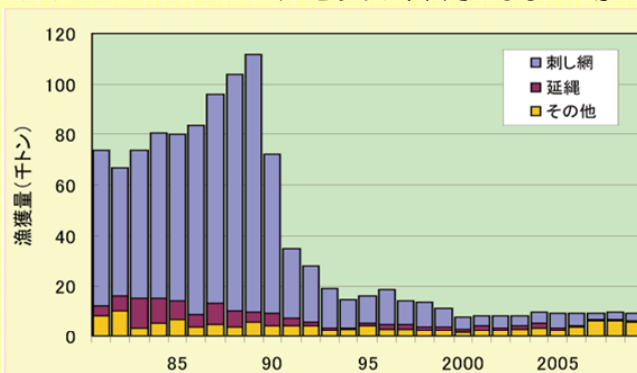
○ 漁業者の代表の方からスケトウダラの話が出たようですが...

知床でスケトウダラを扱っている漁業者は、小さな魚を
獲らないやり方を自分たちで決めて漁業を行いながらス
ケトウダラ資源を守っています。

しかしながら、スケトウダラの漁獲量は、現在、1990
年以前のおおよそ1/10にまで減少し、回復していません。

こうした中、知床の海は北方四島に面し、外交問題の絡
んだ国際情勢から地元漁業者の力だけではスケトウダラ
資源を守ることは難しいとの切実な声が上がりました。

本ワーキンググループではこれを受け、科学的な立場か
ら、他国と共有する海
洋の保全の
あり方につ
いて日本の
努力をアピ
ールしてい
きます。



スケトウダラの漁獲の動向(根室沖)
出典:水産庁「平成22年度 我が国周辺水域の漁業資源評価 ダイジェスト版」



牧野光琢

水産総合研究センター
漁業管理グループ長
漁業と資源管理の
関わりなど社会経
済を担います。



小林万里

東京農業大学
水産資源管理学研究室
准教授
紅一点、アザラシの
研究をしています。
どうぞよろしく。



山村織生

水産総合研究センター
生態系研究室長
トドの生態と漁業
被害について調査
しています。

【問い合わせ先】

北海道環境生活部環境局自然環境課
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-231-4111(代) 内線 24-357

*発行日 平成23年12月